



写真 D

寒冷前線にできた笠雲 ——写真 (A, B, C) の説明——

6月23日 992mbの低気圧が日本海を ENE に進み、その中心からけんちょな前線が南西にのびていた。多度津には16時ごろやってきたが、19時前に雨が上り雲が切れてくると共に瀬戸内の島々の上にきれいな笠雲がかかり刻々変化して行くのが見られた。

Aは西の空に太陽が沈みつつある時、標高 298米の高見島にくっついた笠雲で風上に当る図の左方に細長く雲の伸び出しが珍らしく見られる。

Bはその後10分経過したものであるが、島の頂上から風下の雲底に向って、細いながらも後から後へと繰出す噴煙状の雲が永い間見られた。

Cは更に18分後、辺りはうす暗くなり、島影も淡れたが相変わらず前からの位置に笠雲の名残りが黒く見られる。

当日の多度津での風の最大は W, 15.5m/s, 16h00, また総雨量は15.7mmであった。

—— 多度津港より WNW に向って撮す ——

巻積雲にできた飛行機の航跡 ——写真Dの説明——

7月21日 08h54m ごろ、多度津測候所の頭上を高く大型飛行機が1台西から東へ通過したが、その際、雲の消失した溝のはっきりと残った。この写真は1分後の 08h55m に撮ったものであるが、数分後には、この条痕は消えてしまった。

飛行機の航跡に飛行雲と呼ばれる特有の雲ができるのはときどき見掛けるが、今回のように前からあった巻積雲の一部が消された例は珍らしいように思う。

なお、この雲は早い速度で ENE へ移動していた。

—— 多度津測候所 北 勳 ——